

ナシマルカイガラムシ情報第1号（ナシ）

令和7年5月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**防除適期は5月24日から5月30日です。
1齢幼虫発生ピークを逃さないように注意しましょう！**

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したナシマルカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、5月24日から5月30日で、前年よりやや遅いと予測します（表）。

表 ナシマルカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖
本年	5/27	5/30	5/24	5/25	5/25	5/28	5/25	5/27	5/29	5/27
前年	5/25	5/27	5/21	5/23	5/22	5/25	5/24	5/24	5/27	5/25
前年差	2日遅	3日遅	3日遅	2日遅	4日遅	3日遅	1日遅	3日遅	2日遅	2日遅

アメダス平均気温から予測。5月15日までは本年実測値を、それ以降は平年値から+1.2℃補正した値を用いて計算。補正値は気象庁発表の向こう1か月の予報気温データを参考にした。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

2 ナシマルカイガラムシの防除適期

雌成虫（図(左)）、卵、2齢幼虫は介殻（カイガラ）で覆われ薬液がかかりにくい。そのため、その時期に農薬を散布しても防除効果はほとんど期待できません。農薬による防除効果が高いのは、ふ化後に介殻からはい出してくる1齢幼虫（図(右)）の時期です。特に、第1世代1齢幼虫の発生時期はそろっており、高い防除効果が期待できます。また、葉もあまり繁茂していないので、農薬の散布むらが生じにくく、最も有効な防除時期です。

発生ピークは3月から5月の気温により変動するので、毎年、有効積算温度による防除適期予測に基づいて防除することが重要です。

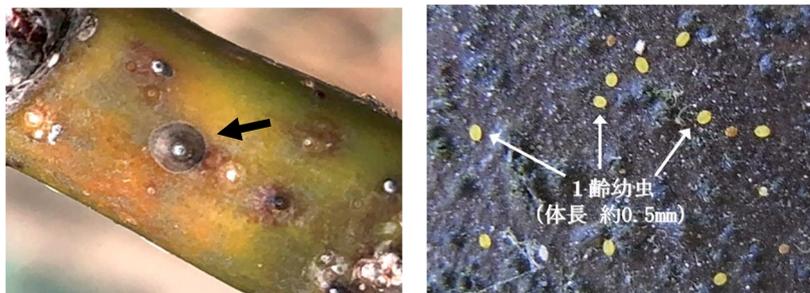


図 ナシマルカイガラムシの雌成虫（左）、1齢幼虫（右）

3 ナシにおける防除

- (1) 発生ピーク予測日を参考に、アプロードフロアブル（適用病害虫名：カイガラムシ類幼虫）、コルト顆粒水和剤などで防除しましょう。
- (2) 雌成虫が重なり合っただけで寄生している場合は、薬液が1齢幼虫の虫体にかかりにくいので、雌成虫を削り取ってから農薬を散布しましょう。
- (3) 農薬の散布むらがないように十分な薬液量で丁寧に散布しましょう。